

びろっぱ

Vol. 452 2024. 3

医療情報

化学療法センター 移転拡充

表紙の写真



業務改善(QC)活動報告会 退院患者さん支援スマイルプロジェクト

近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

ゴールデンウィークは
暦通りの診療体制
です。

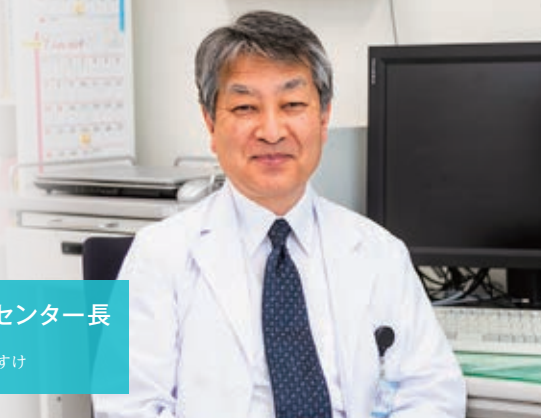
4月					5月						
26日 (金)	27日 (土)	28日 (日)	29日 (月) 昭和の日	30日 (火)	1日 (水)	2日 (木)	3日 (金) 憲法記念日	4日 (土) みどりの日	5日 (日) こどもの日	6日 (月) 振替休日	7日 (火)
通常診療	救急体制での診療			通常診療	救急体制での診療		通常診療	救急体制での診療		通常診療	

北館2階

1月29日 オープン

化学療法センター 移転拡充

近森病院 化学療法センター センター長
田中 洋輔 たなか ようすけ



患者さんの日常生活パターンを変えず、治療の長期間継続を目指す

点滴センターが化学療法センターへ 移転拡充、20床へ

これまで外来化学療法を施行してきた「点滴センター」(旧外来センター6階)は、2024年1月29日に北館2階に移転し、名称を「化学療法センター」と変更しました。2月当初から旧外来センター6階と同規模の11床(ベッド9床、リクライニングチェア2床)で運用していますが、4月にはリクライニングチェアを9床増床、計20床になります。(来月号以降、写真で報告予定。)

癌はじめ、慢性関節リウマチ、 潰瘍性大腸炎、クローン病を外来で治療

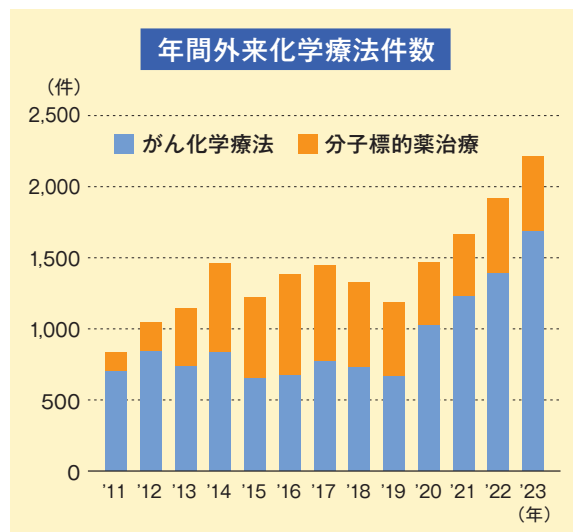
化学療法は、点滴や内服薬によって全身へ薬剤を行き渡らせ疾患を治療する方法です。当センターでは外来で一定の間隔(2~3週間など)で通院いただき、患者さんの日常生活パターンを変えることなく、治療を長期間継続することを目指しており、外来で可能な抗癌剤等の化学療法点滴、慢性関節リウマチ/潰瘍性大腸炎/クローン病等の分子標的薬点滴を行っています。

外来がん化学療法の件数が年々増加してきたこと、「乳腺センター」の4月開設に伴い乳癌化学療法件数の急増が予想されることから、より広い北館2階に移転しました。

なお外来化学療法は、専用室で実施することが保険診療で規定されています。

チェア、ベッド、お好みのスタイルで

化学療法は、治療薬剤+それらの副作用を抑える薬剤の種類により、かかる時間が相当異なります。1時間以内に終了する治療も多い一方、平均的に2~3時間、



特に腎臓の負担を軽くするため輸液を多量に行う場合には1回に5~6時間かかります。移転に当たって全国的に主流となっているリクライニングチェアを増やしましたが、長時間かかる患者さんには、これまで同様ベッドを使用予定です。

ベッド、チェアともにこれまで同様、個人用テレビを備え、お好みのスタイルで過ごしていただけます。

化学療法は効果がある反面、副作用が患者さんを悩ませます。そこで安心して相談いただけるよう、プライバシーに配慮した相談用の個室を設けました。なお、外来化学療法の医療費は「高額療養費制度」に該当します。ご相談ください。

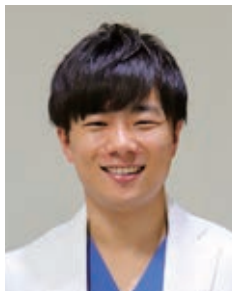


論文掲載

論文初挑戦で初掲載!

近森病院 循環器内科

黒川 夢彦 くろかわ ゆめひこ



論文名

Reversal of Myocardial Metastasis From Primary Lung Cancer After Successful Chemotherapy

掲載誌

Circulation Reports 2023
Volume 5 Issue 6 Pages 267-268



↑ 閲覧は
こちらから



今回、肺癌心臓転移による心電図のST上昇を認め化学療法にて心電図変化が改善した症例を論文掲載させていただくことができました。

「胸痛があるST上昇」と聞くと急性冠症候群を想起しますが、本症例のような悪性腫瘍の心筋転移でもST変化をきたすため、臨床上重要な鑑別となります。

学会でも発表させていただいた症例であり、最終的に文献として形に残すことができ嬉しく思います。論文作成は私自身初めての経験であり、それほど長い文章ではないものの慣れない英語であり非常に苦

労したのを覚えています。いつも締め切りをギリギリ過ぎて提出するにも関わらず笑顔で添削してくださった土居先生には頭が上がりません。

日常臨床で感じる疑問や問題点を論文として記すことの大切さを感じることができました。自分にとって非常に大切な症例となり出会ったことに感謝しておりますが、目標としていた雑誌への掲載は叶っておりませんので、今後もチャンスがあれば論文作成を行ってまいります。

土居先生、今後はちゃんと締め切りを守りますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

指導医
コメント

学術担当顧問

土居 義典 どい よしのり



肺癌などの悪性腫瘍も心臓に転移することがありますが、そのほとんどは心膜への転移です。今回の論文は、心筋への転移というきわめて稀な病態が、さらに化学療法により消失することを初めて画像で証明した論文です。

日本循環器学会の学術誌に掲載されましたが、今年の米国心臓病学会年次集会のImage Presentationにも選ばれています。黒川先生のこれまでの努力が良い呈示につながることを期待しています。

資格取得

外科専門医

外科専門医試験合格

近森病院 心臓血管外科 高尾 賢一郎 たかお けんいちろう



2023年8月末に外科専門医試験を受け、晴れて外科専門医を取得しました。

思えば高校3年生の夏から外科医になることを目指し歩いてきた道のりですが、漸くここまで来たかと感慨深いものがあります。これまで多くの先生方・同僚の皆さんに指導いただき、時には厳しく叱ってもらったり、時には患者さんを救命できたことをともに喜んだり非常に恵まれた医師人生を歩んでいることに感謝しております。

この先にはまだまだ乗り越える山がいくつもあります。

一番近くでは心臓血管外科専門医です。少しでも多く心臓血管手術を学び、これからの医療につなげていきたいと考えております。

外科医としてまだひよこではありますが、患者さんに寄り添える治療を行うように更なる努力を積み重ねてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



近森会
グループ

献血 キャンペーン

400ml
限定

昨年度の
上位参加者

3/28(木) 12:30~17:15

場所 近森病院 総合受付
玄関前駐車場

※2023年度の献血上位参加者表彰も同時開催予定。



研修医

学会受賞 続々!!



初期研修医 1年目
井上 愛美
いのうえ まなみ

2023年12月2日

第123回 日本循環器学会四国地方会
学生・研修医セッション **最優秀演題賞 受賞**

演題 | platypnea-orthodeoxia症候群(POS)に対して経皮的卵円孔閉鎖術時、左房壁に空気だまりを認めた症例

初めての学会、目標としていた循環器学会で

私は学生時代から循環器内科に進みたいと思っていたので、循環器学会で発表の機会をいただけてとても嬉しかったです。初めての学会で緊張してしまい、声と手の震えを必死に抑えながらの発表でしたが、上級医の先生方の熱いご指導のおかげでこのような賞をいただくことができ、光栄です。ありがとうございました。



初期研修医 2年目
橋本 温子
はしもと あつこ

2023年12月2日

第123回 日本循環器学会四国地方会
学生・研修医セッション **優秀演題賞 受賞**

演題 | 日本紅斑熱を誘因とし、心原性ショックを合併し、改善後に短期間で再発した、たこつぼ症候群の1例

研修医として最後の学会で

本症例は1ヵ月間ではありますが担当医として診させていただいたこともあり、学会準備の際は当時を振り返って学び直すことができました。4月から循環器内科専攻医として働くにあたり、時間をかけてひとつひとつフィードバックしていくことでより良い診療に繋がるのではと思い、実践していければと思います。入院診療時からご指導いただきました西村先生をはじめ、循環器内科の先生方にはこの場をお借りしまして心より御礼申し上げます。



初期研修医 1年目
松田 莉奈
まつだりな

2023年12月2日

第123回 日本循環器学会四国地方会
学生・研修医セッション **優秀演題賞 受賞**

演題 | たこつぼ症候群発症後の房室ブロックに対して、ヒス束内ブロックを確認してペースメーカー留置を行った症例

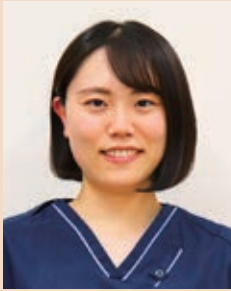
経験を糧に

指導医である小松先生には、最後の最後まで手厚くご指導いただきました。原稿を見ずに発表できるよう読み込むことが大事だと叩き込まれ、読み込んだおかげで、壇上に上がっても緊張しすぎる事なく発表できたことは自信になりました。小松先生をはじめ循環器内科の先生方には、このような経験をさせていただき大変感謝しております。今後も精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。



第85回 日本臨床外科学会総会
 研修医Award **優秀演題賞** 受賞

演題 腹壁癒痕ヘルニア嵌頓による腸管虚血で一時心肺停止となったが救命し得た1例



初めての受賞です!

2023年11月18日

初期研修医 1年目 **堤 明日香**
 つつみ あすか

今回発表した症例は、研修が始まってすぐ、初めて緊急手術に参加して担当させていただいた患者さんです。発表に向けて様々な文献を参照することでより深く理解することができました。患者さん、ご指導くださった塚田先生、指導医の谷垣内先生に感謝申し上げます。



第131回 日本消化器内視鏡学会四国支部例会
 研修医・専攻医 **優秀賞** 受賞

演題 ブデソニドが著効したオルメサルタン関連スプルー様腸疾患の1例



初めて受賞しました

2023年12月9日

初期研修医 1年目 **吉宗 冴**
 よしむね さえ

診療でよく使用されている薬剤で、これほど患者さんが苦しんでしまうことがあるということを実感しました。このような賞をいただいたのも、先生方の熱い指導のおかげです。お忙しい中、ありがとうございました。



がん患者さんの
 抗がん剤治療をサポートする
漢方薬

〈其の2〉

近森病院
 糖尿病・内分泌内科 部長
浅羽 宏一 あさば こういち



調胃承気湯

(ちょういじょうきとう)

昔の医術は考えがシンプルです。病気を治すためには体に溜まっている悪いものを外に出しましょうという考えから、漢方薬では便秘薬が比較的沢山あります。

今日ご紹介する調胃承気湯も数ある便秘薬の中のひとつで、前回ご紹介しました大黄甘草湯に塩類下剤である芒硝(ぼうしょう、硫酸ナトリウム)が加えられたものです。西洋医学では大便を柔らかくするために酸化マグネシウムをしますが、東洋では硫酸ナトリウムをします。治療に対する基本的な考えからは洋の東西で大きな違いはないのが興味深いところです。調胃とは胃腸の調子を整えるという意味で、承気とはお腹がガスでパンパンに張った状態を良くするという意味ですので、便秘で胃の動きが悪くなり食欲が低下し、お腹が張っている方に処方します。

お腹が張って大便が出ないと気持ちがいらいらしたり、気分が塞がりますが、調胃承気湯にはイライラや抑うつ状態を改善させる作用もありますので、調胃承気湯は単なる下剤ではなく、胃の働きを良くして気分をスカッとさせてくれる便秘薬になります。



調胃承気湯の薬能

◆ **大黄**

- ① 大腸を刺激して排便を促す
- ② 炎症を抑える
- ③ 血流を改善させる

◆ **芒硝**

大便を柔らかくする

◆ **甘草**

- ① 刺激により生じた大腸の痛みを緩和する
- ② 炎症を抑える

- ・胃腸の動きをよくする
- ・炎症を抑える
- ・イライラを鎮める
- ・抑うつを改善させる

近森会グループ
看護部

2023年度
業務改善(QC)活動報告会

2024年1月20日

新たな課題に目を向け、改善活動を繋ぐ

近森病院 看護部 副看護部長 齊藤 尚子
さいとう なおこ

毎年行なっているこの業務改善活動報告会は、日常業務の問題点に対してQC(Quality Control・品質管理)の手法に基づいて問題点を明確化し、業務の効率化、質の向上を目的に取り組むものです。

今年度は、10部署が活動に取り組み、その成果を報告してくれました。他部署でも同じ課題を抱えていることが多く、終了後のアンケートでは「大変参考になった」「他部署の取り組みを知る良い機会となった」「継続した活動が必要」といった意見が聞かれました。ぜひ今後もPDCAサイクルを回すことで、更なる質の向上や新たな課題に目を向け、改善活動を繋げていってほしいと思います。

2024年度からは、病院全体で業務改善活動に取り組むことになりました。これまでの経験をもとに、今後は多職種と協力して、アイデアの創出や発想の転換をしながら、組織全体の業務の効率化、質の向上をめざしていきたいと考えています。



	部署	チーム名	テーマ
1	リハ病院 4階病棟西	4階病棟のひとりごと	忘れ物ゼロ宣言
2	近森病院 総合心療センター 4階病棟	ちゆ、個別性	個別性を重視した看護計画を 実践して ～患者、看護師が共同して ケアを考える～
3	近森病院 HCU病棟	褥瘡減らしたい	酸素関連のMDRPUを 減らすための取り組み
4	リハ病院 5階病棟東	NO!抑制帯	抑制をしない看護を目指して ～それは本当に必要か～
5	近森病院 SCU病棟	BRAIN ナーシング チーム	のうそっちゅう、もうしっちゅう
6	近森病院 北館2階病棟	N2 Evolution	変える化現象
7	近森病院 入退院センター	PFMチーム	病棟→入退院センター タスクシフト
8	近森病院 システム・業務委員会	入院楽ちゃん バスターズ with NC	入院業務の効率化を図る
9	オルソ病院 4階病棟	ブルースター	入院処理業務の改善
10	近森病院 ER	チャートから 脱出し隊	繋げる記録を目指して ～チャートから電子カルテへ～

ハッスル研修医



経験が今後の勉強の原動力

去年苦しんだ国試の季節がもうやって来たのかと時間の流れの早さに驚いています。私の研修は4月の外科ローテから始まり、今日に至るまで院内の様々な診療科を経験させていただきました。その全てで感じたのは、先生やコメディカルの方々の熱の入った指導です。時には厳しい言葉もありますが、それが相手の為になると伝わる指導に何度も助けられました。近森病院を選んだ学生時代の決断は大正解だったと思っています。また、経験が今後の勉強の原動力にもなることにも気がきました。私のように座学より経験と考える方には本当にお勧めしたいです。今では、少し余裕が出来て、同期と趣味の釣りやスノーボードなども楽しめるようになってきました。これからも仕事に趣味にメリハリのある日々を送って行きたいと思います。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

Smile Project みんなを笑顔に



医療福祉部 部長 西本 奈加 にしもと なか

退院時に身の回りのものの準備が難しい患者さんに着替えやタオルを



▲ 職員から集めた未使用のタオルを、高知ハビリテーリングセンターでクリーニングし、パッキング。

救急病院では、着の身着のまま緊急入院となる患者さんが多くいらっしゃいます。そのため「無事退院を迎えたけれども、様々な事情で退院時に病衣から着替える服が無い」、「別の病院へ転院後、すぐ必要となる日用品等が無い」、といったケースが存在します（独居で日用品を届けてくれる人が居ない、外傷事故で着ていた服が使用できない、など）。

こういった事情を解決するべく、近森病院と近森会グループの高知ハビリテーリングセンターでは、お困りの患者さんへ衣服やタオルを支援する「スマイルプロジェクト」を2023年5月に立ち上げました。

初めの計画では…

当初は、院内に呼びかけて服と未使用タオルを集め、同じ近森会グループでクリーニング施設のある「高知ハビリテーリングセンター」にお願いして洗濯いただき、患者さん用として準備するという企画でした。それを西岡センター長に相談したところ、「どうせなら新品の服を準備しようよ!」とのこと。そうして追加企画したのが、バザー品を集めてハビリへ預け、秋祭りのフリーマーケットで販売、その収益で服を購入するというものでした。

職員へその趣旨を呼びかけたところ、段ボール11箱分の品が集まりました。ハビリがいーろいろなものが入ったこの段ボールを「宝箱」と呼んで引き受け、整理、値付け、販売などすべてを行って来てフリーマーケットは大盛況!

このような多くの協力を受けて、タオルと新品の服の購入計画は着々と進んでいきました。



西本部長と一緒にプロジェクトを企画した西岡センター長。立役者!

「患者さんのために」が、地域を巻き込んだ活動に

さらに、うれしい連絡が入ります。株式会社ワークウェイさんが協賛してくださいという知らせです。『季節や性別を問わず幅広い方に提供できるものが欲しい』という注文にまで丸ごと応じていただきました。

たくさんの方の協力で届いた品です。大事に使わせていただきます。

ワークウェイさんのご協賛で準備できた新品の衣服。M・Lが20セットずつあります!



◀ 1月26日、ワークウェイの奥村恭明社長、奥村興二専務をお迎えし、スマイルプロジェクトで準備できた衣服やタオルをお披露目! 記念写真は、お馴染みのこのポーズでww この地域を巻き込んだ活動は1月30日付高知新聞にも取り上げられました。



皆さまからのご協力で、なんと衣服上下40セット・タオル50セットを準備!

退職 ごあいさつ

近森病院 呼吸器外科 部長

穴山 貴嗣 あなやま たかし

在職 2022.4.1~2024.1.31

開花する新時代に 寄せて

2022年に入職し2年間、呼吸器疾患の外科治療を担当させていただきました。くしくも世はコロナ禍第6波の中、オミクロン変異株の蔓延で先を見通すことのできない閉塞感の中でしたが、困難な状況下でも遅延なく患者さんに必要な治療を提供させていただくことができました。それが実現したのは、長年培われた各部署の高度な専門性とより良い医療を提供しようとする積極性、危機に耐えるハードウェアなど、全てを結集し有機的に機能させてきたスタッフ皆さんの努力の賜物と感謝しています。近森病院はまさしく'高知の医療を守る最後の砦'。その一員として勤務する機会をいただけたことを光栄に思います。

このたび別の御縁があり、国際医療福祉大学医学部教授を拝命し千葉県成田市の附属病院に赴任させていただくことになりました。新任地では、低侵襲手術や肺がんの集学的治療、医工学開発、国際的医学教育など新たな分野に挑戦します。また当院にも引き続き非常勤で関わらせていただきます。

近くの小川沿いには今年も白木蓮が咲きはじめています。コロナ禍が収束に向かい、新たな時代が始まるこれからも、地域の多くの患者さんが当院で治療を受けられ、健やかに回復されていくことを陰ながら祈念しています。



近森病院 総合内科 部長

市川 博源 いちかわ ひろもと

在職 2010.4.1~2024.4.30

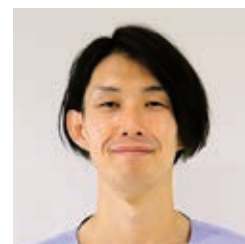
多くの出会いが、 大切な財産に

30代で入職し、気がつけば15年経ち今は50代になりました。

入職当初は外来、内視鏡検査、病棟と日々走り回り、業務についていくのがやっとでした。少し慣れてきたところで、なぜか地域医療連携室の責任者に任命されました。しかし会議で一言も発言できず、理事長と管理部長の話をひたすら聞いていたことを覚えています。その時に、医療を幅広い視点でみることを学びました。

その後、内科の医局長となった直後に新型コロナウイルス感染症が襲来し、様々な対応にあたり組織マネジメントの難しさや面白さを知りました。

15年間で振り返り、近森病院で働いて本当に良かったと思うことがあります。



近森病院 臨床栄養部
管理栄養士

田部 大樹
たべ だいき

栄養で支えるがん治療

近森病院 臨床栄養部

がん治療と脂質

たんぱく質、炭水化物と続いてきたので今回は脂質です。

脂質には、中鎖脂肪酸を使用し食事中的エネルギーの60~90%程度を脂質とする「ケトン食」という食事療法があります。生存期間延長との関連が報告されています。この療法は、1日60~80gの中鎖脂肪酸を摂取する必要があり、糖質の量を通常60%のところを5%以下にするため、「食欲不振」がある患者さんではかえって体重が減少しやすく体力の低下を招く可能性があります。

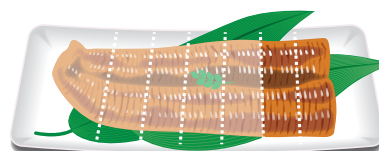
ただ、脂質の摂取方法のなかにはもう少し手軽に取り組めるものがあります。それはEPAやDHAと呼ばれる「n-3系不飽和脂肪酸」の摂取です。これらの脂質は青魚に多く含まれます。大腸がん術前後の患者さんでは在院日数を短縮させる可能性や、「67歳以上・60kg以下」の方で体重増加が得られる可能性が報告されています。摂取目標量は1日2g以上で、秋刀魚では2/3匹、鮭では3切れ、うなぎは1~2切れ程度。その他の青魚にも豊富に含まれています。毎日難しいかもしれませんが、「青魚を3~4回/週程度」の摂取は目指したいところです。

n-3系
不飽和脂肪酸の
摂取目標
1日
2g以上

青魚に
豊富!



秋刀魚 2/3匹



うなぎ
1~2切れ



川久保看護師長(右)と外来センターで

す。それは仕事を通じて多くの方々と知り合えたことです。人生において出会いの大切さ、人から学ぶことの多さ、人と繋がっていくことの可能性を感じました。

近森病院での多くの出会いが、大切な財産になっています。これから人生の次のステージに進む訳ですが、この財産をもとに新しいことにも挑戦していく予定です。これからも人との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

15年間、本当にありがとうございました。

近森病院 整形外科 科長

田中 孝明 たなか たかあき

在職 2019.4.1~2024.3.31

今後一緒に地域医療を

2005年、医師としての第一歩を近森病院でスタートしました(初期研修2年、後期研修3年)。岡山赤十字病院、岡山大学病院、住友別子病院を経て、2019年に再び戻り、あっという間に5年が経ちました。

今年4月からは実家の「土佐整形外科」で地域医療に貢献します。実家では手術を行わないため外来中心のプライマリーケアに従事し、高度医療機関とのつなぎ役となればと考えています。なお、ずっと「T整形外科」が実家と勘違いされますが、違います(笑)。

初期研修では頼もしい同期に恵まれ、皆さまに支えられた充実の時間を過ごしました。上級医から手とり足とり熱心な指導を受け、治療経過が良からうが、時に悪からうが、常に親身に相談に乗っていただき感謝しきれません。現在の私の医療基盤は、前 衣笠主任部長をはじめ皆さまに整形外科の基礎を徹底的に教えられたおかげです。

再就職後は膝関節鏡を中心に診療し、増加傾向の前十字靭帯では昨年度17件の再建術を執刀。県下の人口を考えるとますますの数字と思え、これもひとえに皆さまのおかげです。今後は月に数回お邪魔し、手術・外来のお手伝いができたらと思います。退職は2度目ですが、後ろ髪を引かれる思いです。

近森病院のますますの発展と、皆さま全員のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



西井主任部長(右)と

すまいる♥ナース通信

認定看護師

みんなが幸せになるRRS(※1)

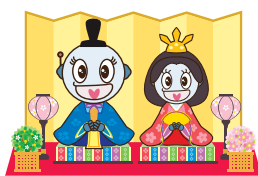
近森病院 ICU 主任
クリティカルケア認定看護師 池澤 友朗
看護師特定行為研修了 いけざわ ともあき

新生RRSへ生まれ変わり、運用を開始してもう直ぐ1年が経とうとしています。今では月に20件ほどの要請があり、RRT(※2)メンバーが活動を行っています。

RRS導入の効果について色々聞かれる事がありますが、院内心停止や院内急変を減少するには、まだまだシステムの見直しが必要だと考えます。ただ、RRSで対応した際に、患者さんも病棟看護師もRRTも関わった人みんなが「対応してくれて良かった、呼んで良かった、対応して良かった」と素直に思える活動が一件でも増える事を目標に、今後も取り組んでいきたいと思ひます。

対応が遅れたり不十分であったりご迷惑をおかけする事もあるかと思ひますが、患者さんが安心して入院生活を送れるようサポートを行ってまいりますので、今後ともRRSをよろしくお祈りします。

※1… Rapid Response System(院内迅速対応システム) ※2… Rapid Response Team



シリーズイメージキャラクター
モリンちゃん



↑
RRSについて、詳しくはひろっぱ2023年7月号へ

手足のスタンプで作ったよ!
保育室「ろると」の応援ポスター





リレーエッセイ

18年を振り返って

近森病院 透析室 看護師

安光 晃利 やすみつ あきとし



現部署にきて早18年、専門業務以外に私にはもう一つの仕事を先輩スタッフから委託されてきました。初めは、新米あるあると思い、皆の希望や場所の調査、時間の調整から終了後の対応。数年後、〇〇担当の安光と言われ早十数年。イベントの度に仕切る羽目に。えっ何の話って…私は宴会部長と言われてます。

近年、新型コロナウイルス感染症が流行り活動が停止。近森理事長からも、「こんな状況じゃ、おまえの腕がふるえんにゃ〜」と言われる始末。



あれから数年、最近やっと年末に餅つきを、スタッフと一緒に準備し開催できました。今は亡き近森正昭先生の教えで、「みんなを盛り上げて、そしたら明日の活力になる。心配せず思うようにやりなさい」と言われたことを今も大切にしています。

どうしたら皆が楽しめるか？相手を思いやる気持ちが、患者さんと接するときにも繋がるという思いで今も続けています。感染流行が落ち着いてきた今、あなたも宴会部長をやってみませんか？いつもと違う仲間の笑顔(素面)を知ることができますよ。

2018年透析室の忘年会、
近森理事長と！



私の趣味

アウトドアで新しい自分に

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 作業療法士

藤本 伊織 ふじもと いおり



元々自分はインドア派であり、学生時代から休日は家でゆっくりすることが好きで、就職してからも同様、コロナ禍の行動制限もあり殆ど外に出ないことが続いていました。

そんな中、友人の一人からキャンプに行ってみないかと誘われました。最近100均でキャンプ道具もある程度安く揃えられ



るとのことで、準備もそこそこに行ってみたのですが、これが中々に楽しく、インドア派だと思っていた自分でも外に出て遊ぶことは好きだ、ということに気づきました。

以降、屋外であれば濃厚接触となりにくいこともあり、1ヶ月に1~2回はキャンプに行くようになりました。ここ最近バイクの免許を取ったこともあり、ツーリングがてら日帰りキャンプをする事が増えています。



一つきっかけがあれば苦手だと思っていたことでも楽しめるという体験は、挑戦することを避けやすい自分を変えるきっかけになりました。今後も気になることにはどんどん挑戦していきたいです。

FREE

まるまる
私の〇〇〇〇にフリーワードを入れて
語っていただきました

私の「趣味」

近森病院
総合心療センター
5階病棟 看護師

島崎 暖士 しまさき あつし

私の趣味は中学生の時から続けているソフトテニスです。現在も社会人チームに所属しており、多い時は週4日、3~4時間程度の練習をしています。また、母校での練習にも時折参加して指導をしています。

ソフトテニスは硬式テニスと違い、ボールが柔らかくマイナーなスポーツですが、中学校の競技人口はどの競技よりも多いです。

ソフトテニスの魅力はいろいろありますが、自分を表現できる場所が一番だと私は思っています。普段は人見知り人で話すことが苦手な私ですが、大会でポイントを取った時に「よっしゃー!」「ナイスボール!」と大きな声を出したり、ペアとハイタッチをしてガッツポーズをしたりすることもあります。10月にあった男女混合の団体戦では優勝することもできました。

まだまだ実力不足ですが、高知県の国体選手になり、全国大会に出場することを目標にして日々切磋琢磨していきたいと思っています。





看護学校通信



学生の成長を感じた看護研究成果発表会

2023年12月15日

近森病院附属看護学校 副学校長
平瀬 節子 ひらせ せつこ

12月15日に3年生の看護研究成果発表会を行いました。学生生活の身近な疑問からテーマを絞り込み、9月から研究がスタートしました。研究の意義には「看護学生が効果的な実習が送れるように…」など、後輩へのメッセージも入っています。講義や実習などを乗り越えながら、看護学生に対するアンケート調査やインタビュー、先輩看護師にも協力いただき、紆余曲折のなか発表の日を迎えました。

当日は、1年生も興味津々で参加し活発な意見交換が行え、学年を超えて学びの共有ができました。

近森で学ぶ。



近森病院附属看護学校

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

2024 3/23 SAT 土

※感染予防の観点から事前申し込みをお願い致します。

<https://www.chikamori-hns.com/>

開催時刻や当日の体験メニューはホームページをご覧ください。



近森看護 🔍

088-871-7582 ※受付9:00~17:00 平日のみ



歳時記

節分(2月3日)



鬼は外、福は内!



明日の節分を前に、そとに赤鬼さん、青鬼さんがやってきました。初めは少し怖かったけど、最後は仲良くなれました。

編集室通信

何かを始めるとき、習慣化するのが難しく、有効な方法はないかと思っていたところ、習慣術という本を見つけた。「うさぎとかめ」「アリとキリギリス」で自分の行動・動機の傾向を知って、そのタイプに合ったやり方を勧めていた。ちなみに私は「うさアリ」タイプで、これ以上ないという最悪の状態を想像してみましよう!とのことだった。 まっちゃん

診療数

令和6年1月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 15,295人
 新入院患者数 1,018人
 退院患者数 928人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 13.56日
 地域医療支援病院 紹介率 97.50%
 地域医療支援病院 逆紹介率 306.46%
 救急車搬入件数 567件
 うち入院件数 322件
 手術件数 538件
 うち手術室実施 344件
 うち全身麻酔件数 227件

職員募集中!

募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- ソーシャルワーカー
- 事務



3,000とおりの誇れる仕事

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



澤田 みさ

Misa Sawada

近森リハビリテーション病院
6階病棟 看護師

聞き手／ひろっぱ編集部



リハ病院のおかん！
情熱看護のたすきを
つなぐ

「ルポのアンケートに答えながら、昔のこと思い出したりして泣いちゃったんです！」と豊かな感情を伝える声は元気はつらつ。初対面の垣根を軽やかに超えるパワフルさで、挨拶もそこそこに取材は始まった。

働きながら正看護師へ

高2の時、祖母の脳梗塞がきっかけで看護の道を決意。しかし看護学校受験日にインフルエンザとなり入学が叶わず、当時の近森病院委託制度を利用して働きながら准看護師を目指した。その後、20代前半で中央高校の専攻科に入り直すという叩き上げのキャリアを持つ。

「待つこともリハビリだよ」

これは、若き日、近森リハビリテーション病院を立ち上げられた初代 石川誠院長から教えられた言葉。「私が廊下立って立位訓練をしていたら、先生が通りかかり、車椅子の患者さんと視点を合わせるために膝をつき『ここまで来てください』と言われたんです。私も急いで先生の横にしゃがみこむと、『いいかい、待つのもリハビリだよ』と諭されて。せっかちな私には衝撃でしたね」。この時、リハ看護に対する情熱の扉が開かれた。

病気の苦しみや不自由さ 患者さんの立場を経験して

人生のターニングポイントがもう一つ。43歳の時、子宮筋腫を摘出することになり3日の入院予定だったが、イレウスを併発する

などの要因が重なり長期入院を強いられた。貧血と酸素不足で苦しくて前向きになれない日々が続いた。

「ようやく点滴が減ってきた頃に『家に帰りたい』と夫に漏らすと『帰ろう！』とすぐに言ってくれて。呼吸もそこそこの状態だったので看護師にも止められました。このままでは“患者”から抜け出せなくなると」。この経験は、心が沈んでいく患者さんの気持ちも理解でき、家に帰れる喜びも教えてくれた。

後輩に“看護の心”を伝えたい

「リハ看護は独特です。障害を抱えたまま、これからどのような生活を送るか、誰にサポートをしてもらうかなど、他職種とともに考えます。なによりご家族の理解と協力も大切」。

リハ看護一筋。現場主義を貫き、豊富な経験をもとに後進育成に力を注ぐ。また、ここ数年は近森病院附属看護学校の後援会会長としても若い看護師を応援する。

「同僚だから言える悩みを吸い取り、上司へのパイプ役も買う。看護師にもいろいろなタイプがありますが、私みたいな緩衝材がいても良くないですか」と。

患者さんとの向き合い方に悩む新人には、助言だけでなく一緒に行って常に手本を見せたいと“現場”にこだわる。数十年前に、若きナースに石川先生自らが手本を見せてくれたエピソードとつながった。

「看護師はきれいな仕事ではありません。くじけることもあります

が、その先のやりがいを見せたい。私が伝えたいのはその心だと思います」。

とびきりの明るさ、経験から培った包容力、リハ看護への情熱、これからも若い看護師にその背中を見せてほしい。

グータッチでお見送りが毎日の習慣

家族は5人。子ども3人はすでに社会人。関東で働く息子以外は一緒に暮らし、長女は近森病院の手術室で看護師として勤務している。

澤田家には、“いってらっしゃい”の時にグータッチをして玄関から見えなくなるまで見送るという習慣がある。「昨日まで元気だったのに」という医療の場に身を置いているからこそそのジクスのようなもの」とほほ笑む。

結婚して30年を超えるが夫婦げんかはしたことがなく、子どもも呆れるほどラブラブだとか。「今したいことですか？夫と旅行です！」。仲睦まじい家族が、澤田さんの活力源になっているようだ。



2007年、近森会グループ運動会に家族で参加。最後列で両手をあげているのが澤田さんの夫。その前が澤田さん、右隣に長女、前に座っているのが次女。運動会などで家族ぐるみで仲良くなったスタッフと一緒に記念撮影。

